

冬春トマト栽培の灰色かび病防除における 結露制御装置の活用

トマト灰色かび病は、天候不順などにより高湿度条件が続くと発病が急激に増加して収穫量に大きな影響を及ぼしますが、発病後の薬剤散布では十分な防除効果が得られません。また、県内産地では、複数の薬剤で本菌の感受性低下が確認されており、薬剤防除をさらに困難にしています。

そこで、本病を効果的に防除するため、結露センサーによる暖房機制御と薬剤散布との併用効果について検討しました。

場所：ビニルハウス2棟（6×20m）

期間：2017年10月～18年4月

湿度管理

慣行
結露制御

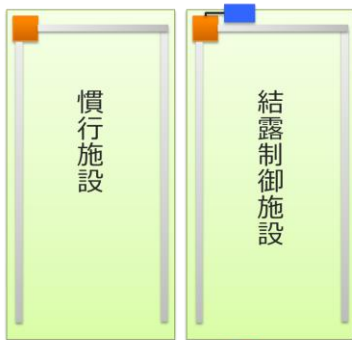
薬剤防除

無散布
薬剤散布



供試した殺菌剤

殺菌剤名	耐性 リスク	FRAC コード
キャプタン水和剤	低	M4
イミノクタジアルベシル酸塩FL	低	M7
水和硫黄剤	低	M2
TPN水和剤	低	M5
ポリオキシシン水和剤	中	19
フルジオキシソニル水和剤	中	12
炭酸水素カリウム水溶液	未発生	NC



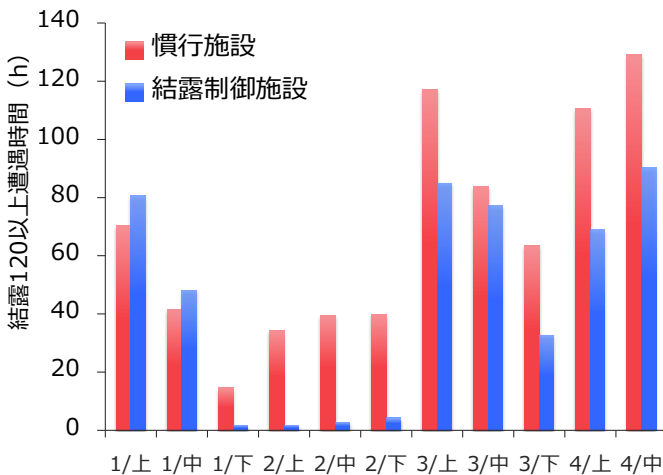
暖房機設定：12℃

結露制御装置

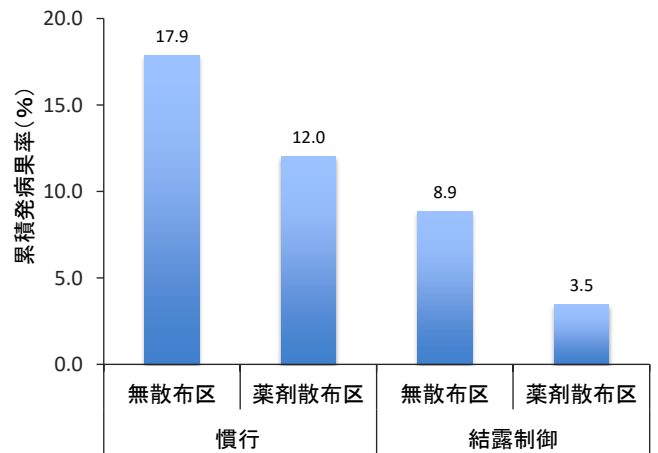
作動条件設定：
結露値120以上
→暖房機3分燃焼+送風17分



鈴木電子（株）まもるんサリー



結露制御により多湿環境を改善



結露制御と薬剤散布の併用は効果が高い

(研究成果)

- 本装置を活用することで、施設内の多湿環境を改善し、灰色かび病の感染リスク、発病圧を低下させることができます。
- 耐性菌発達リスクを低減した薬剤による防除体系と併用することで安定して高い防除効果が得られるため、持続可能な防除が実現できます。